ワークショップ2



システマティックレビューとメタアナリシス：運動器理学療法における実践

株式会社PREVENT
三木 貴弘

システマティックレビューとメタアナリシスは、個別研究の知見を統合し、運動器理学療法における臨床判断の根拠を整理するうえで重要な方法論である。しかし実際には、対象者の背景、介入内容、比較条件、評価時点、アウトカム指標の違いにより、結果の統合や解釈が難しいことも少なくない。加えて、レビューの質は研究課題の設定、文献検索の網羅性、選択過程の透明性、バイアスリスク評価、統計解析の妥当性に大きく左右されるため、方法論の理解と実践的運用の双方が求められる。本ワークショップでは、臨床疑問を PICO に沿って構造化し、検索戦略、適格基準、データ抽出、定性的統合、メタアナリシス実施までの基本的流れを概説する。さらに、効果量、異質性、感度分析、出版バイアス、エビデンスの確実性の捉え方を整理し、統計学的有意差のみではなく臨床的意義を踏まえて結果を読む視点を共有する。また、レビューを読むだけでなく行うための実践的支援として、文献スクリーニングに用いる Rayyan、文献管理に有用な Paperpile、統計解析と可視化に活用する RStudio などのソフトウェアについても紹介する予定である。さらに検索式などを作成するために補助的に生成 AI を活用するテクニックも紹介する。運動器理学療法において、質の高いエビデンスを適切に評価し、臨床実践と研究立案に橋渡しする力は今後ますます重要になる。本ワークショップが、システマティックレビューとメタアナリシスを実践的に活用するための一助となれば幸いである。

略歴

2008 年　日本福祉リハビリテーション学院理学療法学科　卒業
2011 年　Curtin University, Department of Health Science, Abbreviated Physiotherapy Course　留学
2020 年　北海道大学保健科学院博士課程前期課程　修了（保健科学修士）
2024 年　北海道大学保健科学院博士課程　修了（保健科学博士）

理学療法士養成校卒業後、オーストラリア留学、整形外科病院勤務を経て、現在は株式会社 PREVENT に所属

専門理学療法士（運動器・スポーツ）
Mulligan Practitioner
腰痛・運動器疾患を中心に論文・著書多数
理学療法士
博士（Health Science）